

大高城

大高城(おおだかじょう)は、名古屋市緑区大高町にあった日本の城。

桶狭間の戦いの前哨戦として、当時今川義元の配下であった松平元康(徳川家康)が「兵糧入れ」をおこなったことで名高い。現在は国の史跡に指定され^[1]、公園として整備されている。

目次

- 1 歴史
- 2 現在
- 3 交通

歴史

築城年代ははっきりしないが、土岐頼康が尾張守であった南北朝期には池田頼忠が城主を務め、永正年代には花井備中守や、水野為善とその息子の忠守が居城したことが伝えられている(為善については異説もある。また忠守は水野忠政の息子の水野忠守とは別人)。

天文年間も引き続き水野氏が治めたが、織田信秀の支配下にあった。天文17年(1548年)、今川義元の命で野々山政兼がこの城を攻めたが、落とすことができず政兼は戦死する。

しかし信秀の死後、息子の織田信長から離反した鳴海城主山口教継の調略で、大高城は沓掛城とともに今川方の手に落ちる。この脅威に対して信長は「丸根砦」「鷲津砦」を築き、大高城に圧力を加える。永禄2年(1559年)、朝比奈輝勝が義元の命をうけ大高城の守りに入る。

翌永禄3年(1560年)には、大高城の包囲を破りそのまま鶴殿長照が守備についた。5月18日夜には、大高城に松平元康が兵糧を届け、長照に代わり元康が城の守備についた。やがて信長の攻撃による義元の死(桶狭間の戦い)を確認した元康は岡崎城に引き下がったため、大高城は再び織田家の領土となった。(ただしもっと早く、永禄元年に元康の「兵糧入れ」が行われたと記す史書もある。また、永禄二年とする史書もある。その史書の記述が間違いである可能性もあるが、大高城が今川方に落ちた直後にも元康が兵糧入れを行ったのではないかと考える研究者もいる。)

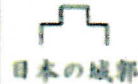
まもなく廃城となったが、尾張藩家老の志水家が、元和2年(1616年)にここに館を設けてから代々住むようになった。この館も明治3年(1870年)に売却された。

現在

昭和13年(1938年)に国の史跡に指定され、現在は「大高城址公園」として整備されている。かつては二重の堀が張り巡らせてあったというが、現存する主な遺構は、本丸及び二の丸の曲輪跡、それらの間に存在する土橋と空堀などである。また本丸隅の一段高くなった区画には城山八幡社と、明治40年(1907年)に建てられた城址碑がある。近辺には、弘治2年(1556年)に大高城主水野大膳が父の水野忠氏(和泉守、藤九郎近守)を弔うために建てた曹洞宗寺院、春江院がある。

交通

JR大高駅より南西へ徒歩約10分



大高城
(愛知県)



大高城本丸跡

城郭構造

平山城

遺構

本丸・二の丸の曲輪跡、土橋・空堀

指定文化財

国の史跡



史跡大高城址の碑

丸根砦

丸根砦(まるねとりで)は、名古屋市緑区にあった砦。織田信長によって築かれ、桶狭間の戦いの前哨戦が行われた。

目次

- 1 歴史
- 2 現在
- 3 交通

歴史

永禄2年(1559年)、織田信長が今川義元との領土争いの前線として鷺津砦や善照寺砦とともに整備した。場所は、鷺津砦の東南400メートル、大高城からは東に約800メートルに位置し、鳴海から延びた丘陵の先端に築かれ、東西36メートル、南北28メートルの砦の周囲を、幅3.6メートルの外堀が囲んでいる。

永禄3年(1560年)5月19日、桶狭間の戦いの前哨戦が行われ、佐久間盛重を将とする織田軍が立てこもったが、松平元康率いる今川軍に破れ全滅したといわれている。その後、三河で独立した徳川家と織田家が同盟関係になったため存在意義を失い、そのまま放棄された。

現在

大高城や鷺津砦の跡ともに国の史跡に指定されている。

周辺は住宅地となっているが、砦のあった丘の上は史跡として整備され記念碑や殉難烈士の碑が立っている。曲輪や堀が良好に残っている。

交通

- JR大高駅の東
- 名古屋市交通局市バス丸根バス停からすぐ

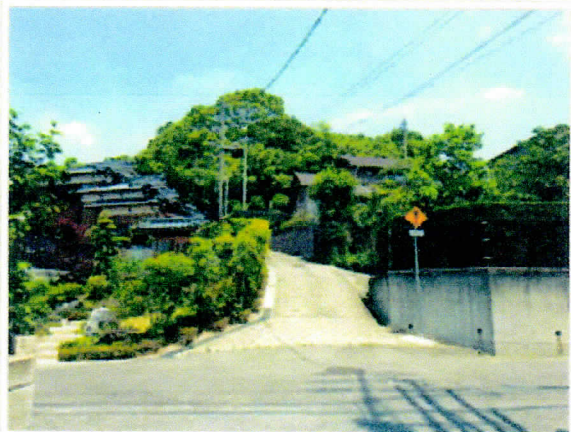


丸根砦 (愛知県)



丸根砦址

城郭構造	平山城
築城主	織田信長
築城年	永禄2年(1559年)
廃城年	永禄3年(1560年)
指定文化財	国の史跡
位置	北緯35度3分51.8秒東経136度56分43.2秒



奥の森林が丸根砦址

鷲津砦

鷲津砦(わしづとりで)は、名古屋市緑区にあった砦。織田信長によって築かれ、桶狭間の戦いの前哨戦が行われた。

目次

- 1 沿革
- 2 現況
- 3 交通

沿革

大高城の北東約 700メートルの丘陵上に築かれ、東西 25メートル、南北 27メートルの規模だったという

尾張で勢力を伸ばしていた織田信秀の死後、子の信長が跡を継ぐと、信秀に従っていた鳴海城主山口教継が駿河の今川義元に寝返り、義元は大高城を手中にした。そこで信長は、鳴海城に対して丹下砦・善照寺砦・中島砦を築き、さらに大高城と鳴海城の間を遮断するために、丸根砦と鷲津砦を築いた。鷲津砦には、守将として織田秀敏と飯尾定宗・尚清父子が置かれた。

永禄3年5月19日(西暦1560年6月12日)早朝、尾張に侵攻した今川軍は鷲津砦と丸根砦に攻撃を開始した。その報せを受けた信長は清洲城から出陣したが、熱田神宮に差し掛かったときには、すでに両砦は落城したらしく、煙が上がっていたという。このとき鷲津砦を攻撃した今川方の武将は『武徳編年集成』等の後世の史料では朝比奈泰能とされているが、泰能は弘治3年(1557年)に死去しているため実際は子の泰朝で、親子を誤ったものと見られている。

その日の桶狭間の戦いで義元は討ち死にして今川軍は尾張から撤退し、今川氏から独立した三河の松平元康との間に清洲同盟が成立したため、鷲津砦が再び使われることはなかった。

現況

大高城・丸根砦と共に1938年(昭和13年)に国の史跡に指定されており、史跡鷲津砦址の碑が立つ。周辺は鷲津砦公園として整備されている。砦址のある丘陵の麓には長寿寺という寺があり、この寺はもと真言宗長祐寺と称していたが、鷲津砦の兵火により焼失したという^[7]。



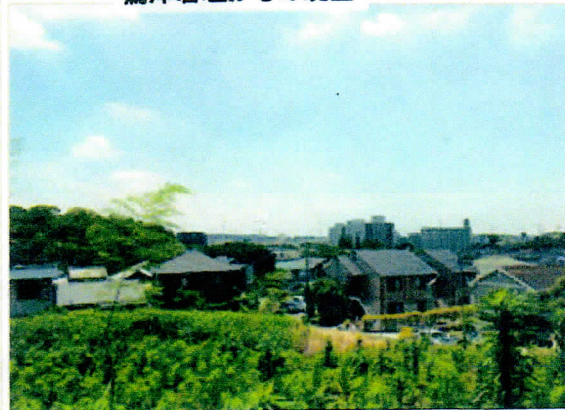
鷲津砦 (愛知県)



史跡鷲津砦址の碑

城郭構造	平山城
築城主	織田信長
築城年	永禄2年(1559年)
廃城年	永禄3年(1560年)
指定文化財	国の史跡
位置	北緯35度4分10.43秒 東経136度56分32.24秒

鷲津砦址からの眺望



交通

JR大高駅より東へ徒歩約5分。